

いのち  
災害から生命を守る学びテスト

# JBK ジュニア防災検定<sup>®</sup>

第3回

上級

(40分)

## 問題用紙

---

「ジュニア防災検定」に取り組むことを通して、みなさんが、次の①～③のようになることを目指しています。

- ① 日ごろから災害に備えた準備ができる。
- ② 災害時に生命を守るための行動ができる。
- ③ 未来を創るひとりとして防災・減災のために何ができるのかを考えることができる。

- 問題用紙は全部で14ページあります。
  - 名前を答案用紙の決められた欄に書きましょう。
  - 問題の答えは、答案用紙に書きましょう。
  - 質問があるとき、トイレに行きたくなったとき、気持ちが悪くなったときなどは、手をあげて知らせましょう。
-

中学3年生のはるかさんの家では、平成26(2014)年の年末に、この年に起こった大きな自然災害に関するテレビの番組を見ました。放送後、はるかさん、お父さん、お母さんは自然災害について話をしました。

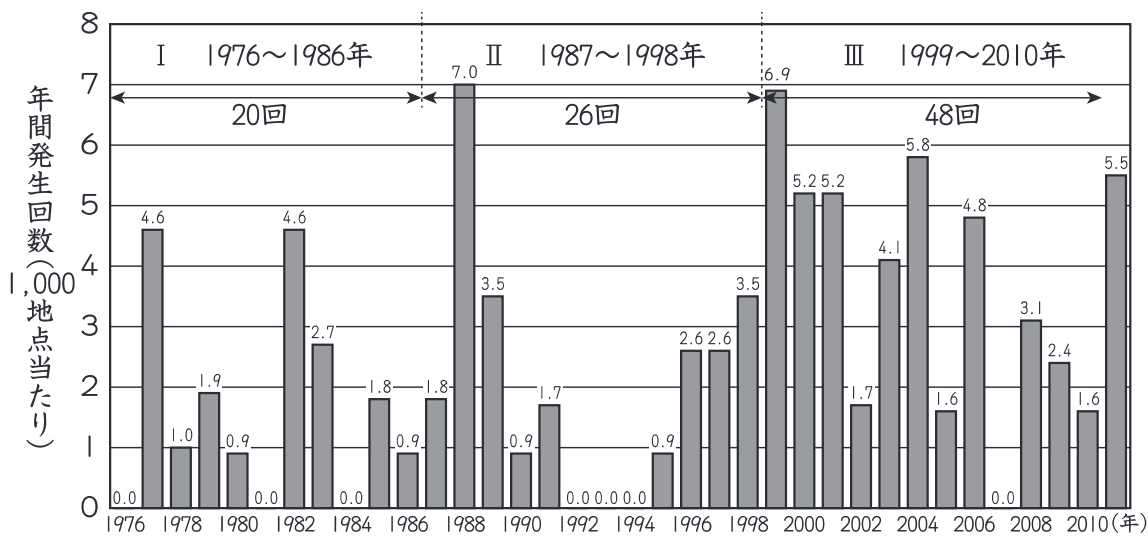
母：今年も日本ではいろいろな自然災害が発生したのね。  
 はるか：そうね。今年の修学旅行先が広島だったから、私は広島での土砂災害がとくに印象に残っているわ。  
 父：そうだったね。お父さんも、人口100万を超える都市で、あのように大きな災害が起きたので驚いたよ。  
 はるか：あの土石流が起こる直前、すごい雨が降ったとテレビで言っていたわ。

平成26(2014)年8月に広島で起きた土砂災害では、多くの犠牲者と建物の全壊・半壊などの被害が出ました。この土砂災害は、1時間あたり最大約120ミリの猛烈な雨が、継続して降ったことが引き金となって起こりました。

気象や地形に関するいくつかの資料をもとにしながら大きな風水害が起こる原因に目を向けていきましょう。

問題1 次の図1は、昭和51(1976)年から平成23(2011)年までの全国の観測地点における、1時間あたりの降水量が100mm以上の発生回数の移り変わりを示したものです。

図1 全国の観測地点での時間雨量100mm以上の発生回数の移り変わり



(資料)気象庁資料より国土交通省作成

(国土交通省「国土交通白書」による)

図1から読み取ることができI～IIIの3つの期間における時間雨量の変化から、今後の土砂災害の発生についてどのような予測ができるでしょうか。ふさわしいものを次のア～ウから1つ選び、記号で答えましょう。

- ア 3つの期間の時間雨量100mm以上の発生回数は最近になるほど減っており、今後は土砂災害が発生する可能性はほとんどないと考えられる。
- イ 3つの期間の時間雨量100mm以上の発生回数はほとんど変わっておらず、今後も土砂災害がまれに発生する可能性があると考えられる。
- ウ 3つの期間の時間雨量100mm以上の発生回数は最近になるほど増えており、今後も土砂災害がしばしば発生する可能性が高いと考えられる。

はるか：広島市で大きな土砂災害が発生したのは、短時間に降った大雨が関係していたのね。

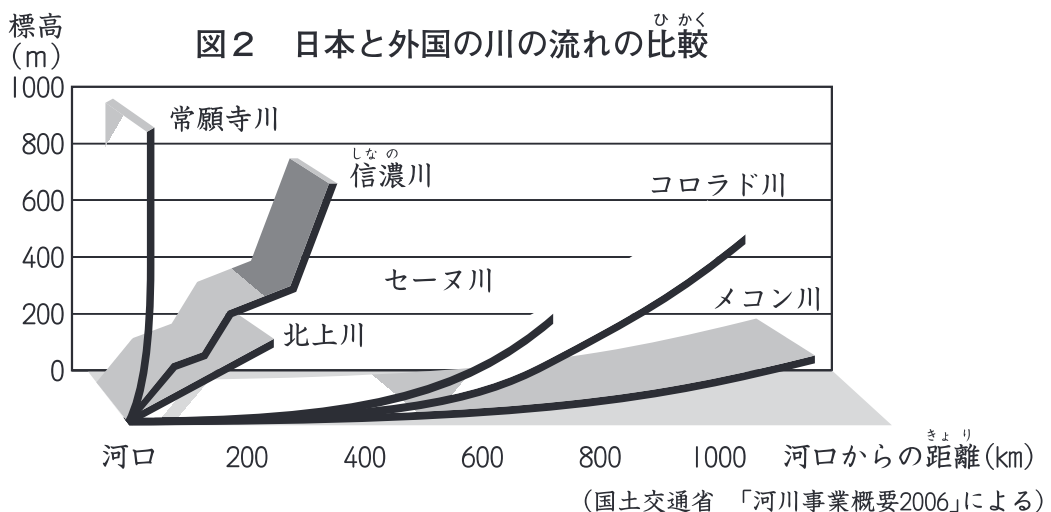
母：日本では、洪水など水害も多いわね。それは日本の川の特徴に関係があるのかもしれないわね。

父：はるかも地理の時間に、日本の川の特徴について学んだんじゃないか？

はるか：たしかそのとき学校からもらった資料があったわ。

はるかさんが机の引き出しを探してみると、日本の川のようにすや川に沿った土地のようすを外国と比較した次の図2・図3がのっている資料がありました。これらの図からも、日本が水害を受けやすい国であることが推測できます。

問題2 次の図2は、日本の川の流れを外国の川の流れと比べたものです。

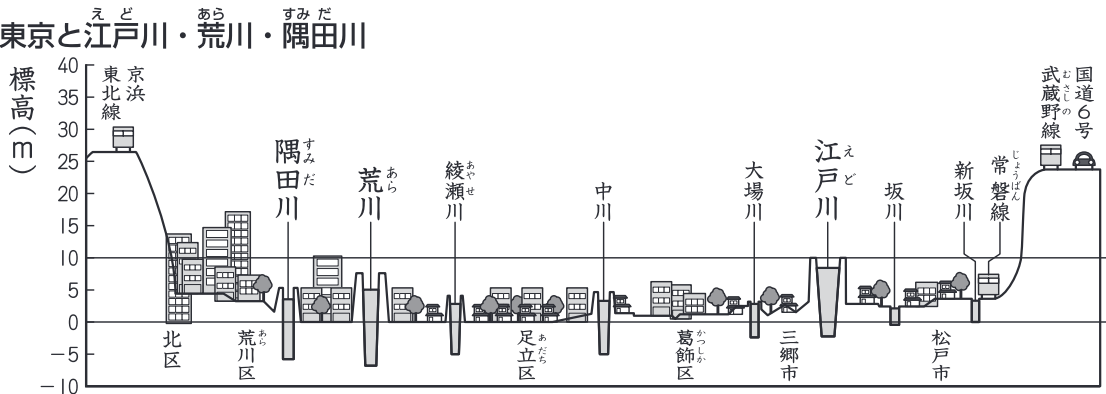


日本の川は、大陸を流れる川と比べて、長さが短く、上流から下流への勾配が急になっています。日本の川の特徴から、洪水が起こりやすい理由を説明しましょう。

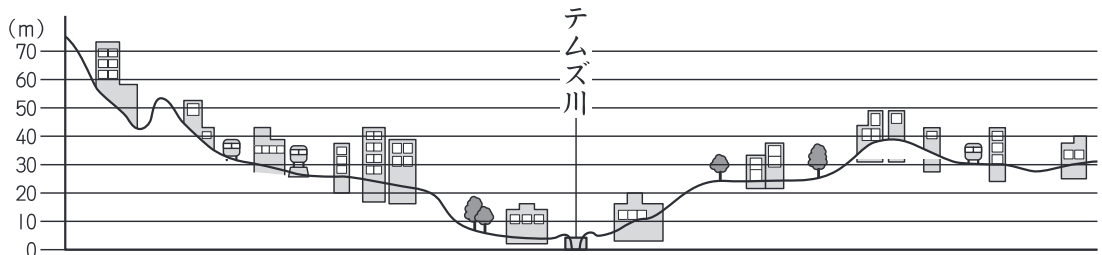
問題3 次の図3は、東京とイギリスの首都ロンドンの土地の断面を示したものです。川の水面と住宅地の標高に着目したとき、東京には防災上、どのような問題があるかを説明しましょう。

図3 東京とロンドンの土地の断面

●東京と江戸川・荒川・隅田川



●ロンドンとテムズ川



(国土交通省 「河川事業概要2006」による)

父 : お父さんは、今年の夏休みも趣味の山登りに出かけたので、9月におこった御嶽山の噴火も印象に残っているよ。

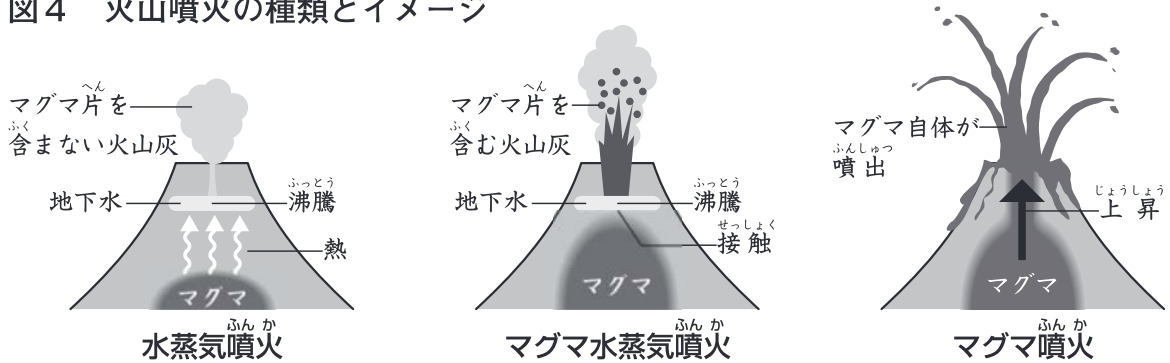
母 : 御嶽山が噴火したのは9月27日で、山腹では紅葉が始まっていたからね。それを見ようと多くの人が登っていたのね。

父 : その日が土曜日で、噴火が発生した時刻が正午に近かったことも犠牲者が多かった原因の一つなんじゃないかな。

はるか : お父さんもこれから山登りに出かけるときには、気をつけないといけないわね。

問題4 噴火の種類には、マグマが直接地表に出てくる「マグマ噴火」や、マグマが直接地下水にふれて発生する「マグマ水蒸気噴火」、地下水がマグマによって加熱されて水蒸気になって爆発する「水蒸気噴火」があります(図4)。2014年9月の御嶽山の噴火は「水蒸気噴火」でした。

図4 火山噴火の種類とイメージ



噴火が爆発的になると、火山灰のほか、火山弾、噴石が降ってきます。また、火山ガスが噴き出し、溶岩のかけら・火山灰・ガスなどがまじって流れ落ちる「火砕流」が発生することもあります。火砕流は、600～800℃にもなる高熱で、時速100kmにも達する高速で山腹を流れ下ります。

火山災害の特徴として、ふさわしくないものを次のア～エから1つ選び、記号で答えましょう。

ア 火砕流は、モクモクとした見かけどおり、煙なので大きな被害を起こさない。

イ 火山災害では、被害が数か月から年単位と長期化することもある。

ウ 火山灰には、小さなガラスの粉のようなものも含まれているので、目や肺などの器官を傷つけ、健康被害をもたらすこともある。

エ 火山灰は、水を含むと固まって重くなる性質を持っているので、屋根に積もると重みで家がつぶれたり、水で流すと固まって排水溝が詰まったりする。

- 母 : 年末のテレビでは11月に長野県北部で起こった地震のことも取り上げられていたわ。地震のことも心配よね。
- 父 : そうだね。1995年の阪神・淡路大震災や2011年の東日本大震災のこともあるからね。
- はるか : 私も首都圏で起こる可能性がある地震のことを学校の先生から聞いたことがあるわ。
- 父 : お父さんが内閣府のホームページの「防災情報」のサイトを見ていたら、『防災白書』の最新版に、日本で近い将来発生する可能性の高い地震のことが書かれていたよ。

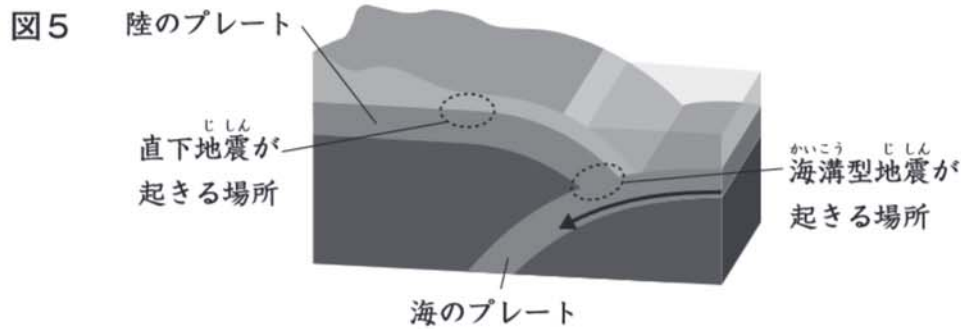
内閣府では、毎年『防災白書』という報告書を発行しています。『防災白書』では、国がどのような災害対策を行っているのかを国民に知らせ、その防災行動につながる情報を提供しています。

平成26(2014)年版の『防災白書』では、首都直下地震や南海トラフ地震の発生により大きな被害が起こる可能性や、災害発生時の「共助」による防災活動の重要性などが特集されています。



平成26年版  
『防災白書』(内閣府)表紙

- はるか : 首都圏周辺では、どのような地震が心配されているの？
- 母 : 首都圏周辺では、2種類の地震が起きる可能性があるの。一つは海底で起きるM(マグニチュード)8クラスの地震で「海溝型地震」と呼ばれ、もう一つは内陸の地下で起こるM7クラスの地震で「直下地震」と呼ばれているのよ。「首都直下地震」は、後者の直下地震のことね。
- 父 : 海溝型地震は100~200年に一度発生し、その間に、直下地震が、数回発生している。1923年の関東大震災が海溝型の地震によるものだったから、今度は、直下地震が起こるのではないかと考えられているんだ。



- 問題5 「首都直下地震」についての説明として、ふさわしいものを次のア～エから1つ選び、記号で答えましょう。
- ア 過去のデータから地震の発生時期や地震の種類をはっきりと特定できるため、それほど大きな被害は出ないと考えられている。
- イ 東京では大きな被害が想定されているが、千葉県・埼玉県・神奈川県では影響がほとんどないと考えられている。
- ウ 東京とその周辺地域の海岸は、砂浜海岸だったところが多く、過去の地震で津波の被害を受けたことはないので津波の心配はないと考えられている。
- エ 東京とその周辺地域では、多種多様な首都機能・都市機能が集中しており、直下で大規模な地震が発生したときに国全体にあたえる影響が大きいと考えられている。

はるか：首都圏で大きな地震が起こったらどんな被害が出るの？

父：同じ直下地震による阪神・淡路大震災では、ビルや家屋の倒壊や火災の発生、高速道路や鉄道高架の倒壊や交通網のマヒ、電気・ガス・水道の不通など、とても大きな被害が発生したんだ。

母：首都直下地震では、木造の家が密集している地域で、家がつぶれたり、大規模な火災が起こることも心配されているわね。

父：住宅の耐震化や家具の転倒防止対策、そして火災の対策もしっかりやらなくてはいけないね。

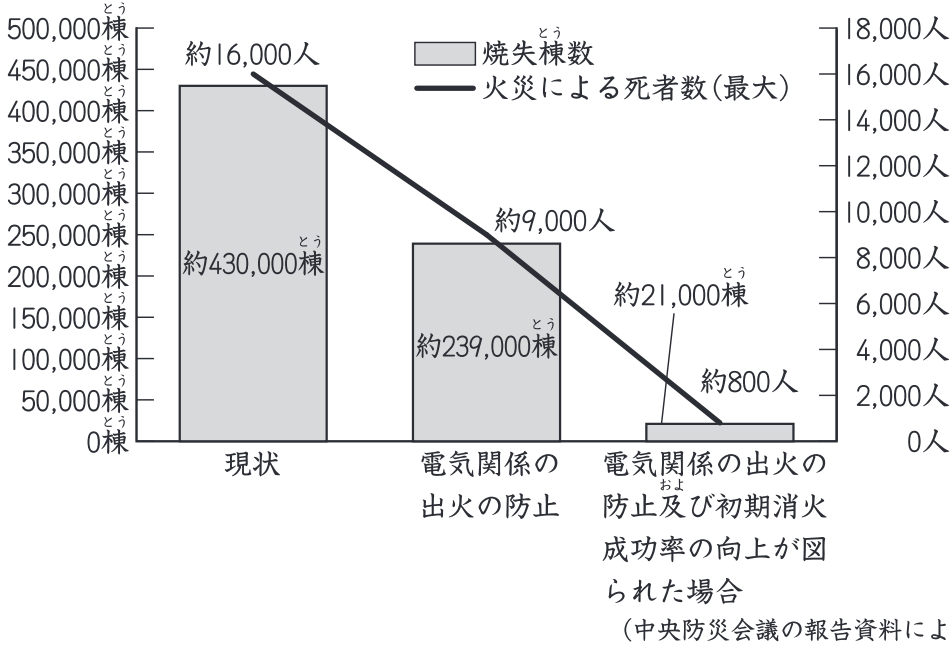
はるか：なぜ、火災が心配なの？

父：1923年の関東大震災では、竜巻のように猛スピードで移動し炎を吹き上げる「火災旋風」というものが発生し、3万8000人も焼死者を出したんだ。だから火災の対策はとても大切なんだよ。

母 : 「通電火災」のことも心配されているわ。  
 はるか : 「通電火災」ってなに？  
 父 : 「通電火災」というのは、地震による停電が復旧したとき、電気製品の発熱や破損した電気配線などから発火することによって起こる火災のことだよ。

問題6 次の図6は、住宅の出火防止対策の現状とそれが強化された場合の効果を示したものです。「通電火災」及びその対策の説明としてふさわしくないものをあとのア～エから1つ選び、記号で答えましょう。

図6 住宅の出火防止対策の現状とそれが強化された場合の効果 (都心南部直下地震)



- ア 火元は電気ストーブや白熱スタンド、オーブントースターなどが多く、地震による転倒や落下で傷ついた電気コードから出火することがある。
- イ 地震の揺れでこわれにくい、できるだけ古い電気器具やガス器具を使い続ける。
- ウ 避難するときは、ブレーカーのスイッチを切る。
- エ 設定以上の強い揺れを感知すると電気を自動遮断するブレーカーの設置を進める。



問題7 大規模な地震が昼間に発生した場合、鉄道などの主要な交通機関がとまることで、通学・通勤しているはるかさんやお父さんも含め、膨大な数の帰宅困難者が出ることが予想されます。また、帰宅困難者が、学校や会社、または通学・通勤途中の避難場所などで長時間待機しなければならなくなることも予想されています。こうした事態を想定して、それぞれの家庭でどのような備えができるでしょうか。それぞれの家庭で私たちがあらかじめ決めておくことができる取り決めや約束をあげてみましょう。

はるか：『防災白書』で特集されている「南海トラフ地震」の「トラフ」ってどんな意味なの？ また、どんな地震なの？

父：「トラフ」というのは溝という意味で、「南海トラフ地震」というのは、駿河湾から九州沖の太平洋海底にのびる溝状の地形に沿って発生するマグニチュード8～9クラスの地震のことだよ。

はるか：私、南海トラフ地震についてももう少し調べてみるわ。

はるかさんは次のような資料を見つけました。

図7 南海トラフ地震のイメージ図

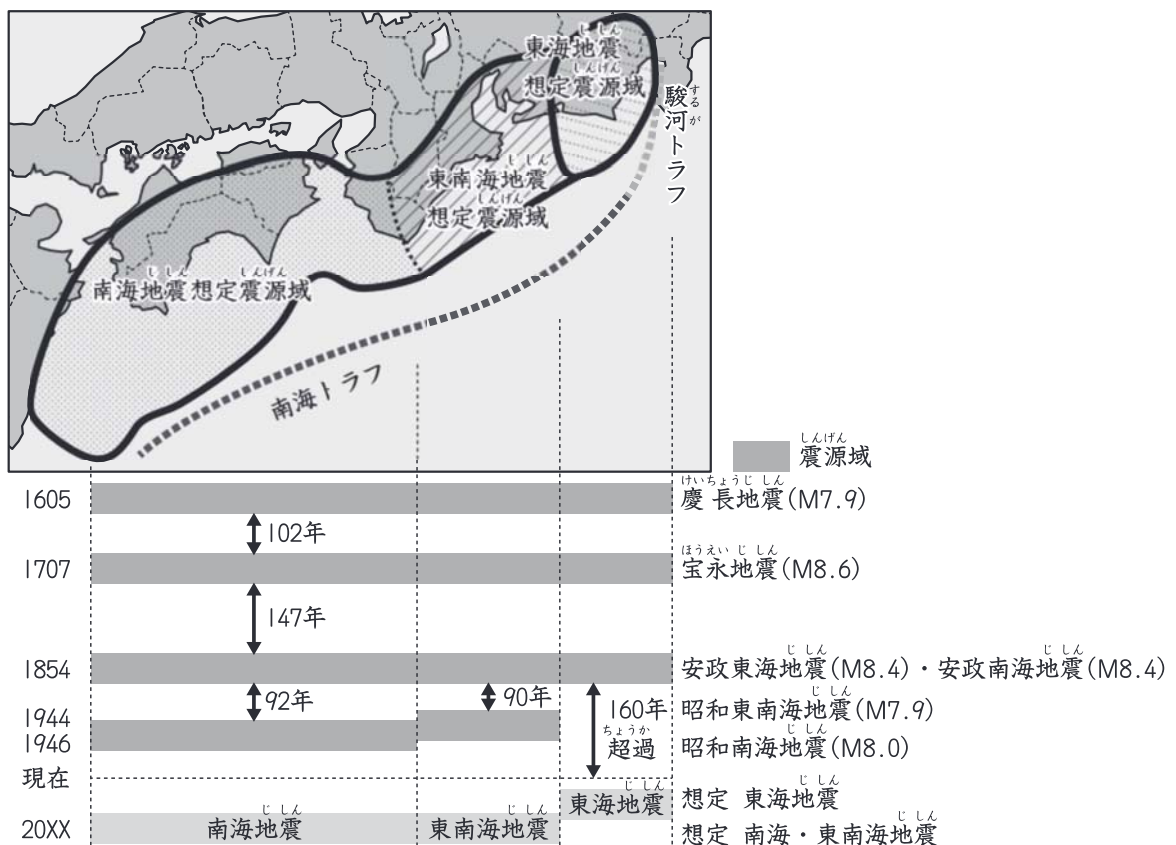
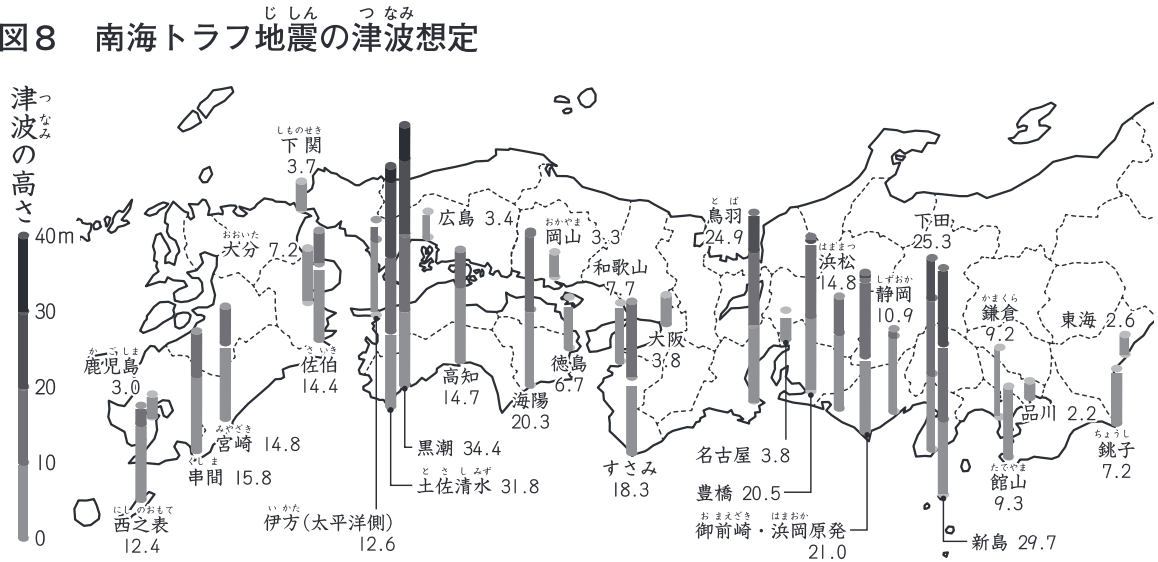


図8 南海トラフ地震の津波想定



問題8 はるかさんが見つけた資料を参考にして、「南海トラフ地震」の説明としてふさわしくないものを次のア～エから1つ選び、記号で答えましょう。

- ア このトラフに沿っては、100～150年の周期で大規模な地震が発生しており、前回の地震から160年を超えている東海地震の発生危険性が高まっている。
- イ 東海地震、東南海地震、南海地震が同時、または連動して巨大地震が発生する可能性がある。
- ウ 被災地は広範囲にわたり、情報通信が途絶え、道路や空港など交通網が破壊され自治体や国による救助活動が難しくなる。
- エ この地震に伴って発生し、太平洋岸を襲う津波は、どの地点でも最大で10m以下だと想定されている。

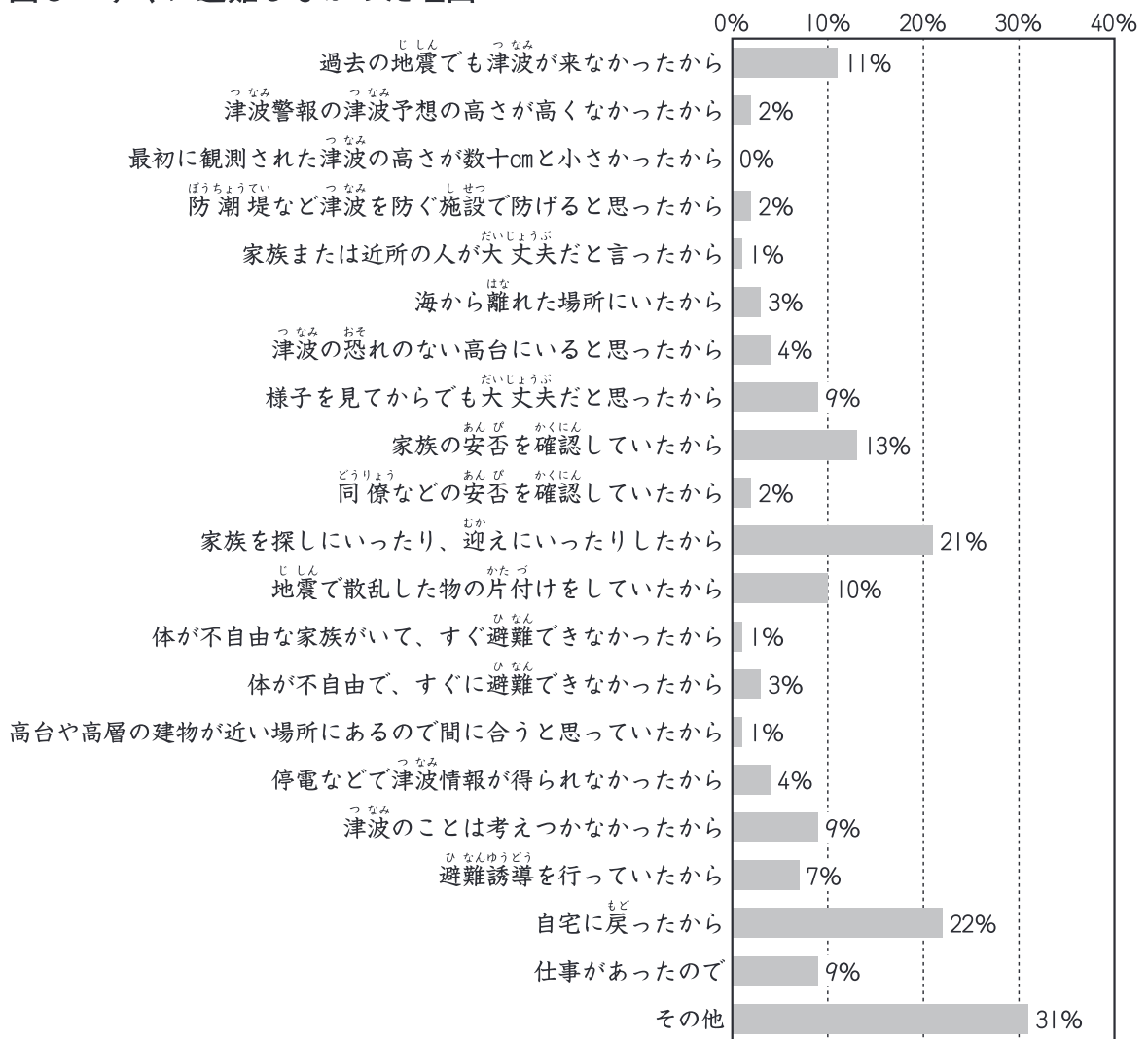
母：東日本大震災では、地震によって停電し、テレビやラジオ、固定電話が使えなくなったのよね。携帯電話もつながらず、行政の防災無線も聞こえなかったところもあったらしいわ。

はるか：情報がまったく何もない状態で、突然、巨大な津波に直面した人もいるのね。

父：東日本大震災において人々の避難行動を調べたものがあるよ。

問題9 下の図9は、東日本大震災における避難について、地震のあと「すぐに避難しなかった理由」の調査結果を示しています。この図9を見て、あなたが考えたことを書きましょう。

図9 すぐに避難しなかった理由



※その他：身内や知人等の世話をしていた、会社や家族の指示で待機していた、避難の準備をしていた など  
 (『平成23年東日本大震災における避難行動等に関する面接調査』)

問題10 南海トラフ地震では、広範囲にわたり強い揺れと巨大な津波が発生するとともに、地震が起こってから津波が到達するまでの時間が、場所によっては数分という極めて短い地域が存在すると予測されています。

次のコラム記事は、平成23(2011)年の東日本大震災に際して岩手県釜石市で見られた、巨大津波から多くの子どもたちの命が守られた例です。

### 「釜石の出来事」について

釜石市は、昭和三陸地震(昭和8年)やチリ地震(昭和35年)等の津波で大きな損害を受けた経験があった。

そのため、同市では、「津波てんでんこ」とよばれる自分の命を守ることの重要性や津波の恐ろしさを伝える防災教育を実施してきたほか、「想定を信じるな」、「最善を尽くせ」、「率先避難者たれ」という「津波避難の3原則」を強く訴えてきた。

こうした教えによって、例えば、全校児童の9割以上が下校していた釜石小学校では、児童全員が無事に避難することができた。(後略)

[平成26年版『防災白書』(内閣府)より、一部改]

「津波てんでんこ」について説明したものとしてふさわしいものを次のア～エから1つ選び、記号で答えましょう。

- ア 津波の危険が迫っている時は、集団で避難することが大切であるので、決められた集合場所にある程度の人数が集まってから避難する。
- イ 津波の危険が迫っているかどうかは、実際に自分の目で見て判断する必要があるため、まずは、海の様子を見たうえで避難することが大切である。
- ウ 津波の危険が迫っている時は、家族や知人もそれぞれ避難していると考え、まずは自分の身を守るための行動が大切である。
- エ 津波の危険が迫っている時は、まず自宅に戻り、家族みんながそろってから、決められた場所に避難することが大切である。

はるか：「首都直下地震」と「南海トラフ地震」のどちらの地震が起こっても、大きな被害が出そうね。

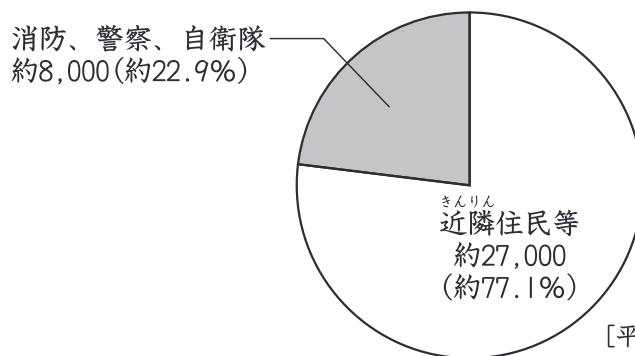
父：大きな災害が発生したら、役所や消防署などが壊れたり、連絡がつかなかったり、道路が寸断されたり、さまざまな理由で、すぐに消防・警察・自衛隊などが救助に来られない可能性が高いんだ。

母：自分の身は自分で守り、近隣の人が助け合うことがとても大事ね。

はるか：それが自助と共助ということね。

問題11 平成7(1995)年に発生した阪神・淡路大震災では、地震直後に約16万4000人ががれきの下敷きになり、8割の人は自力で脱出しましたが、約3万5000もの人が生き埋めになりました。次の図10は、阪神・淡路大震災における、生き埋めになり自力で脱出できなかった人を、誰が救助したのかを表したものです。この図10を参考にして、自助・共助について、ふさわしくないものをあとのア～エから1つ選び、記号で答えましょう。

図10 阪神・淡路大震災時の要救助者と救出者数の割合



[平成26年版『防災白書』(内閣府)による]

ア 4分の3以上は、近所の住民によって救助されたので、隣近所で協力することが大切だ。

イ 一刻も早く救助することが最優先になるので、二次災害の危険があったとしても必ず救助に加わる必要がある。

ウ 倒壊した家や家具の下敷きになり、体を圧迫されて声を出せない場合もあるので、音で知らせたり、ホイッスルを吹いたりして助けを求める。

エ 大きな地震では、一瞬で家や家具が倒れることがあるので、家の耐震化や家具の転倒防止対策などを行っておく。

父：地域の自主防災組織が総合防災訓練を行っているよ。住民が参加し、避難所設営、消火、応急救護、AED救命、炊き出しなどの訓練をしているようだ。

母：お母さんも一度参加したことがあるの。災害ではない時にも役立つようないろいろな体験ができて、よかったわ。

はるか：私も今度、機会があったら参加してみたいわ。

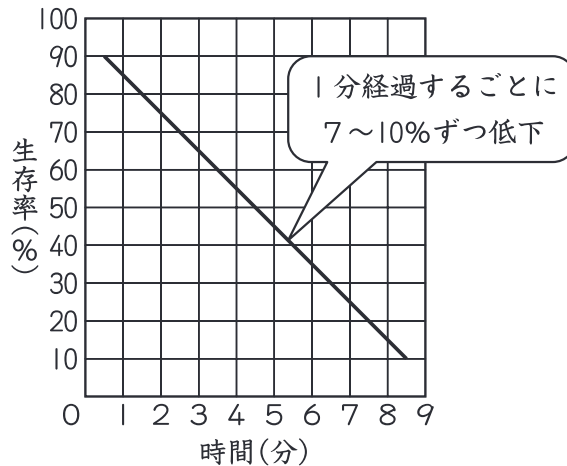
問題12 人が倒れていて、心肺停止状態と疑われた場合、3つの行動(①119番通報とAEDの要請、②胸骨圧迫、③電気ショック)が大事です。

下の図11は心停止から除細動(心臓に強い電流を流して規則正しいリズムに戻すこと)までの時間と生存率です。心停止から1分経過するごとに生存率が7~10%低下していることがわかります。救命救急では、救急車が到着するまでのすばやい対応が必要なことがわかります。



HAL大阪CGデザイン科作成

図11 心停止から除細動までの時間と生存率



出典：「Guidelines 2000 for Cardiopulmonary Resuscitation and Emergency Cardiovascular Care」より

また、下の図12は、救命救急の手順を示したものです。

図12 救命の手順



(1) 上の図12中の④にある「胸骨圧迫」のときの姿勢として正しいものを次のア～ウから1つ選び、記号で答えましょう。

- ア 斜めに圧迫する。      イ 垂直に圧迫する。      ウ ひじを曲げて圧迫する。



(2) 救命救急について、ふさわしくないものを次のア～エから1つ選び、記号で答えましょう。

- ア 心肺機能が完全に停止している場合は、AEDは電気ショックを与えない。  
イ 倒れている人がいた場合、まずは反応を確認し、反応がない場合は、大きな声で協力を求める。  
ウ 救命救急の訓練を受けたことがない人は何もするべきでない。  
エ 血液やおう吐物などで感染が疑われる場合は人工呼吸を行わず、胸骨圧迫だけ行う。

いのち  
災害から生命を守る学びテスト

**JBK**  
ジュニア防災検定®



**N-eco**

このマークは、自然緑の環境への  
取り組みを促すためのマークです。

このテストはエコプリンティング(ライスインキ/森林認証紙)で作られています。

問題制作協力：日能研

(本書の記載内容の無断転用・転載を禁ず)



テレビや新聞では、しばしば自然災害のニュースが報道されます。そうしたニュースを私たちはどのように受け止めたらいでしょうか。仮にそれが今の自分から遠く離れた場所で起こったできごとであっても、それを自分の身の回りでもいつ起こるかわからないものとして受け止めることで、その災害を被った人たちの痛み、苦しみ、悲しみが、私たちの未来へ生かされていくのではないのでしょうか。今回は、2014年にわが国で発生したいくつかの自然災害を振り返り、また将来予想される災害について、文章や図などの資料を読み取ることを通して見ていながら、私たちとその回りの人びとの防災や減災について考えました。

問題1 時間雨量100mmという、まさに“滝のような雨”で、土砂災害が引き起こされる可能性が非常に高くなります。図1から、Ⅰ～Ⅲの時期における全国の観測地点での時間雨量100mm以上の発生回数の年平均を調べてみると、Ⅰの1976～1986年の足かけ11年では20回なので年平均1.8回、Ⅱの1987～1998年の足かけ12年では26回なので年平均2.2回、Ⅲの1999～2010年の足かけ12年では48回なので年平均4.0回と、近年になるほど年平均発生回数が増えていることがわかります。したがって、今後も土砂災害をとまなうような豪雨がしばしば発生する可能性は高いといえます。

問題2 図2から、日本の川は、大陸を流れる川と比べて、長さが短く、上流から下流への勾配が急であることがわかると問題文でいられています。このことは、日本では、降った雨がきわめて短時間に川を流れ下り、下流の水量が急速に増すために、洪水が発生しやすいことを示しています。

問題3 図3からは、ロンドンの住宅地がテムズ川の水面よりも高い場所に位置しているのに対して、東京の住宅地では流れる川が何本もある上に、広い範囲の住宅地がそれらの川の水面よりも低い場所に位置していることがわかります。このことは、東京の住宅地では堤防が決壊したときに大きな水害に見舞われる可能性が高いこと、そして氾濫した水が引きにくいことなどの問題があることを示しています。

問題4 アにある「火砕流」は、問題文にもあるように、火山の噴火活動にともない「溶岩のかげら・火山灰・ガスなど」が、「600～800℃にもなる高熱で、時速100kmにも達する高速で山腹を流れ下(る)」大変危険な現象です。1991(平成3)年には、雲仙岳の噴火の際に発生した火砕流で43名の方々が犠牲になりました(不明者も含む)。

問題5 予想されている「首都直下地震」では、首都周辺が日本最大の人口密集地域であること、多くの首都機能・都市機能が集中する地域であることなどにより、震源地に近い地表で大きな被害が予想されるのはもちろん、その影響は東京都とその周辺県、さらには国全体におよぶと考えられています。

問題6 図6から、電気関係の出火防止が実現すれば、現状の出火防止対策による焼失棟数が半分近くに減り、また火災による死者数(最大)も現状の60%以下に抑えることができると予測されています。そのためには、強い揺れを感知すると自動的に電気を遮断する感震ブレーカーの設置や、同じく自動的に火を止める感震消火装置のついた電気・ガス器具への買い替えが求められています。

問題7 大規模な地震が昼間に発生して主要な交通機関がとまったときには、通学・通勤先にとどまらざるを得なくなる可能性が高くなります。その場合、多くの人々がまず家族との連絡を取りたいと思うでしょう。しかし、阪神・淡路大震災や東日本大震災などの経験から、家庭の固定電話は停電によって使えなくなる可能性が高く、また通常の携帯電話は回線が混み合っつながらなくなる可能性が高く、したがってふだんのような通信方法で連絡を取り合うのはむずかしくなります。そこで、事前に家族どうしてそれ以外の連絡方法(災害用伝言ダイヤルの利用、ツイッターやフェイスブックの利用など)を話し合っておく必要があります。

問題8 はるかさんとお父さんとの会話や図7・8からは、南海トラフ地震とは「南海トラフ」とよばれる駿河湾から九州沖の太平洋海底にのびる溝状の地形に沿って発生すると予測されている巨大地震であること、それは「東海地震」「東南海地震」「南海地震」を合わせたよび名でもあること、このトラフに沿って過去に100～150年の

周期で大規模な地震が発生していること、この地震にともなって発生する津波の高さは、場所によっては30 mを超えると想定されていることなどがわかります。

問題9 図9を読み取る上で気をつけたいのは、まず数値のとくに大きいものに目を向けるということです。ここにある「すぐに避難しなかった理由」の「その他」以外でもっとも大きい割合になっているのは「自宅に戻ったから」で、次が「家族を探しにいたり、迎えにいたりしたから」です。ここから、多くの人がまずは家族のことを考えて行動をとったために、「すぐに避難しなかった(できなかった)」のだということがわかります。この図からも、大規模災害発生時に家族どうして連絡を取り合う方法をあらかじめ話し合っておくことの重要性がわかります。この2つ以外の項目に関して考えたことであってももちろんかまいません。

問題10 ここに取り上げられているコラム記事からは、三陸海岸にあって津波の常襲地帯の一つである釜石市では、大規模地震の発生時に、子どもからお年寄りまでのそれぞれが、まず自分の命を守るために避難行動を起こす「津波てんでんこ」が実行されたことがわかります。それぞれの人がどんな場所にもまず自分の命を守るための行動を起こすことが徹底されていれば、問題9の図にあったような「家族を探しにいたり、迎えにいたり」する人もより少なくなるはずです。

問題11 阪神・淡路大震災などの経験から、都市部における直下地震の発生時には、多くの人倒壊した建物の下敷きとなって生き埋めになる可能性があります。そのようなとき、人びとはどのようにしてたがいの命を守っていけるのでしょうか。図10は、阪神・淡路大震災時に助けを必要とした人(要救助者)を助けた人(救出者)の数の内訳を示しています。これによれば、救助された人の約77%は、近隣の住民などの手によるものであったことがわかります。これは、大きな災害発生時における共助の重要性を示すものです。

問題12 地域住民がふだんから訓練への参加を心がけることで、共助の範囲も大きく広がります。その一つとして救命救急があります。図11では、心停止状態におちいった人は、およそ1分が経過するごとに生存率が7～10%ずつ低くなっていくことが示されています。また、図12では救命救急の手順が示されていますが、その中の④にある胸骨圧迫では、伸ばした両腕を心肺停止状態にある人の胸部に垂直に立てて強く圧迫することが必要です。救命救急の訓練を受けたことがない人でも、119番への通報やAEDの要請など、できることを率先して行っていくことが大切です。

**JBK**  
ジュニア防災検定®  
第3回

上級 答案用紙

得点

学校(団体)名		
名	フリガナ	男・女
前		

問題 1	ウ
---------	---

問題 2 日本の川は、大陸を流れる川と比べて長さが短く、勾配が急なため、大雨が降ったときに、水が短時間で下流に集まってしまうから。

問題 3 東京では、川の水面よりも標高が低くなっている住宅地が多いので、洪水が起こると、水が引きにくいという問題がある。

問題 4	ア	問題 5	エ	問題 6	イ
---------	---	---------	---	---------	---

問題 7 **解答例** 大規模な地震の発生時にも家族がたがいに連絡を取り合える方法を考えておく。また、災害用伝言サービスの利用法を家族全員で確認しておくようにする。

問題 8	エ
---------	---

問題 9 **解答例** 図9では「すぐに避難しなかった理由」で最も多いのが「自宅に戻ったから」で、次に多いのが「家族を探しにいったり、迎えにいったりしたから」となっている。いずれも家族の安否が気がかかりですぐに避難ができなかったのだと思う。このことから災害発生時に家族が連絡を取り合う方法をふだんから決めておくことが大事であることがわかる。

問題 10	ウ	問題 11	イ	問題 12	
				(1) イ	(2) ウ